

R6年度 社会教育施設等訪問 報告

◆飯豊町西部地区公民館（飯豊町）

「だんだんとコロナ禍前の活動に戻りつつある」「地域の課題は、少子高齢化」（館長談）



- 環境の利（手ノ子スキー場）を活かした生涯スポーツにつながる取組み（グランドゴルフ）を継続的に実施しています。
- 現在、放課後活動（水曜日の午後）の時間に児童との交流を実施しています。今後、中学校との連携を強めていく意向です。
- 施設は気持ちよく整備されていて、人が集まりやすい工夫が多く見られました。（図書館の分館、リサイクル品コーナーの設置等）
- 住民目線で、人口や規模、地域の課題に応じた魅力ある事業を推進いただいています！

◆中郡地区交流センター みずほ（川西町）

地域づくりは、人づくりだが、これが一番難しい。（館長談）



- 中郡地区の社会教育振興会と連携した活動を行っており、地域活動が盛んです。しっかりとした運営組織を土台に、充実した事業を展開していらっしゃいました。
- 近年サークル的な活動は減少傾向であるものの、時間を短縮するなど会の持ち方を工夫して参加者を確保し、活動を続けています。
- 学童保育も地区で運営。会場は小学校ですが、事務局は交流センターにあり、中郡小児童100名の内、50名が学童保育利用とのことです。
- 学校運営協議会に児童代表が参加。地域のごみ拾いをしたい、との要望が出され、今後実施の見通しです。
- 今後若者の事業（中学生との意見交換会など）実現させていくことで地域の未来や可能性を開いていきたいと力強く語っていただきました。

◆高畠地区公民館（高畠町）



交流プラザを中心にコロナ禍以前の賑わいをどう取り戻すかが課題。（館長談）

- 教育キャンプ：暑さ・熊対策…今年度、9月に1泊2日で実施。今後、案内を配付前に、事業の目的など小学校にも説明し、働きかけていくとのことです。
- 子どもの減少、役員のなり手不足で、子ども会育成会の運営が厳しくなってきたところもあるが、廃止という形をとらずに保留とし、よりよい運営について模索している最中とのことでした。
- 様々な事業で参加者が少なく、2～3年実施しないと復活が難しくなっていることから、時流に合わせて運動会をウォーキングDayにしたり、盛り上がっている事業や根強く残っている事業の課題を整理したりしながら、継続することを大切にしていました。
- 防災の拠点としての大きな役割。
- 賑わいづくりの素材を住民ニーズに絡め、更に魅力的な事業にしようと工夫なさっていました。

◆漆山公民館（南陽市）

少子化、地域が衰退していく中で、どうやって安心安全を保障しつつ、コミュニティとして守っていくか課題。（館長代理談）



- 昨年度頃からコロナ禍前の事業（元年度の事業）にかかのぼって実施している状況です。
- 社会福祉協議会（民生委員等）と連携した事業、市の防災課との連携等各所との連携を大切にしています。
- 自主事業…浴衣の着付けなど地域の文化を残していく点で大事。参加者が少ないことが課題だが継続していきたい。（夏の盆踊り…浴衣で行くとかき氷1杯無料）
- 小中学校との連携として、スポレク大会（徒競走、中学生ボランティア）盆踊り大会（子ども太鼓）、文化祭（作品展示、園児のお遊戯、漆山小150周年記念ソングをみんなで歌うイベント、中学生によるレモネードの実施）
- 少子高齢化時代の地域づくりの手立てを模索し、漆山らしい事業を展開しているところなど学ばせていただきました。

7月22日(月)～9月5日(木)実施 ～お忙しい中ありがとうございました!!～

◆致芳コミュニティセンター(長井市)



文部科学大臣表彰受賞後も、日々見直しや挑戦を重ねられ、進化し続けているコミュニティセンターです。

- 地区住民の声を大切にしながら情報交流の拠点としての役割を果たしていらっしゃいます。
- 時流を捉え、常にわくわくする致芳地区の創出を目指し事業の刷新を図っていました。
- 致芳愛あふれる若者の地域への関わりや、人材育成の好循環における事例等の紹介がありました。
- 「致芳らしさ」を大切にしながら、よりよい事業を推進するため、継承すべきものと新しく変えていくもののバランスの見極めなど、大変参考になりました。



◆白鷹の里たかやま(鷹山地区コミュニティセンター) (白鷹町)



全館バリアフリー、薪ボイラー、太陽光発電等、恵まれた最新の設備を備えている新施設

の有効活用を目指していらっしゃいます。

- 少子高齢化やコロナの波を受ける中、守りつないでいくものと、新しく創り広げていくもののバランスを図りながら、地域の賑わいづくりの拠点として、また、地域課題の解決に向けて、精力的に事業の見直しを図っていらっしゃいました。
- 地域の特性を活かし、見通しをもった事業を中心となって推進していく役割や、放課後子ども教室、子獅子舞の伝承・保存活動など地域の子どもの豊かな育ちを支える拠点としての重要な役割を果たしていらっしゃる事がわかりました。



◆中部コミュニティセンター(米沢市)



「いいことがいっぱいある地域」
「職員の力量のすばらしさに支えられている」(館長談)という言葉がとても印象的でした。

- 立地を生かした賑わいのあるコミュニティセンター。
- 生涯学習から地域づくりへ移行しながらも、職員の特技を生かした魅力的な事業を展開中です。
- コロナ禍中でも事業を中止せず、地域のために予算を使い、できる事業を考え、工夫しながら歩み続けていらっしゃる点に勇気をいただきました。
- 地区民から句を募集し、絵も文字も全て手作りのカルタを活用した雪中カルタ大会は館の目玉の事業となっているそうです。

◆田沢コミュニティセンター(米沢市)



「小さい地区ながら、地域住民の協力のもと、活発な運営を展開していらっしゃいました。

- 草木塔の地区。かつて林業と農業がさかんでしたが、一次産業離れが進み、専業農家は減少。センター内には田沢の歴史を伝えるミニ資料館コーナーが設けられています。館長さんの解説が大変勉強になりました!
- 建物は令和3年度にオール木造(6割が地元産の杉)建物として新築。きれいで機能的なセンターです。
- 三西小 R5年3月に閉校。事業の中核を担っていた子供対象の事業の持ち方や、『みどりの少年団』、「田沢の太鼓」の継承が課題とのことでした。
- 統合年度に、西部小の5・6年生が来館しふるさと教室(文化継承の授業)を縮小した形で実施していました。